

広報ほんべつ

本割

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

2017

August
No.1066

8月

表紙 第75回本高祭
衣装パフォーマンス



Pick up

- ✿ 伝える人～歴史民俗資料館友の会～
- ✿ 資料館企画展「戦争にいった馬たち」
- ✿ 交通安全母の会40周年記念事業
- ✿ 起業家等支援事業成果発表会

伝える人

Messengers

本別町歴史民俗資料館友の会（高橋利勝会長）が、今年結成30年目を迎えます。本別空襲の語りべ活動、資料館や学校での昔生活体験のサポートなどを通して、若い世代、特に子供たちへ「ふるさとの歴史」を伝えていきます。

本別の歴史を伝えて30年

同友の会は、1988（昭和63）年11月10日、37人の会員で設立されました。1982（昭和57）年にオープン



資料館友の会語りべ部会の皆さん

した資料館を拠点に、歴史や自然などに詳しい「ふるさとを語る人」を増やそうと作られた団体です。現在の会員は32人。平均年齢は60代ですが、講座や学習会への参加、会報「神居山」の発行など、学びを通じて資料館事業にボランティアで協力しています。

また、本別空襲や戦争の体験を後世に伝承するため、昨年「語りべ部会」が発足。同部会が中心となって、戦争を知らない世代へ平和の大切さを語りつく公開座談会「本別空襲を伝える会」を、同年7月15日に本別高校において開催しました。体験を生かした活動を積極的に展開しています。

伝える人



昨年の公開座談会では、10代からもすばらしい発表がありました



空襲当時の様子を語りべから聞きます

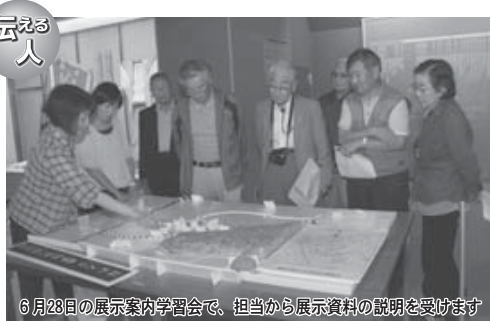


町外の団体から展示案内の依頼が増えています

学びあい、情報共有

同友の会では、戦後70年特別展のあった一昨年からは、会員対象の「展示案内学習会」を実施しています。これはボランティアガイドの役割を知り、実際に資料を見ながら展示のポイントを確認するための学習です。思いがけず戦時中の体験談が聞けたり、会員同士で質疑応答になったりと、貴重な交流時間でもあります。

このように、戦争体験者と戦後生たちの会員が意見を交わす機会を多く持ち、語りべの養成を図っています。



6月28日の展示案内学習会で、担当から展示資料の説明を受けます

新たな広がり

勇足中学校では、この企画展を学校での「ほんべつ学びの日祈風事業」と位置づけ、毎年7月15日に全校生徒と教職員で参加しています。展示を見るだけでなく、語りべの会で空襲体験を聞いたり、昔の食文化体験として食糧難の頃の食べ物を試食したり、五感を使って戦争の時代について理解を深める取り組みで、文化発表にも発展し

てきました。今年初め、社会科担当の政所知恵教諭が「語りべから直接お話を聞いて学びたい」と、同友の会の展示案内学習会に自主参加。生徒の質問項目を持参したところ、会員の中で答え方が難しいもの、調査が必要なものがありました。そこで、回答を調整するため二回目の学習会を7月6日に開催。先生を交えた有意義な情報交換の場となりました。

見学当日

猛暑の7月14日、勇足中学校の全校生徒25人が資料館を訪れ、5人の語りべを迎えられました。3年生は小学校から通算9回目の見学ですが、各自が興味のある資料をじっくりと見たり、積極的に質問したりする姿が見受けられました。

見学の後は試食。空襲時同じ中学生だった語りべ林敏子さんから食生活のお話を聞き、雑穀ご飯とカボチャの茎のエゴマ和えをいただきました。

伝える人



伝える人

生徒代表あいさつ 3年 林 彩奈 さん
私たちのためにたくさんの準備をありがとうございました。質問に答えていただいた多くのことを、忘れずに伝えていきたいと思っています。

勇足中学校3年生からの質問（一部紹介）

- Q 戦争から帰ってこられた人はどれくらいいましたか？
A 日本全国で外地からの引揚者は約330万人という統計があります。
- Q 一番辛かったことは？
A 辛いという感覚は麻痺していたかも。農家はまだ食べ物があつたので、市街地より恵まれていました。



- Q 金属供出で鍋等を出したそうですが、家庭には一切なくなったのですか？
A 町内会が各家庭から必要最低限の物以外を回収。代用品として土鍋、ほうろく鍋などを使い、鍋を直す「鋳掛屋（いかげや）」という職業もありました。

- Q 戦争中、高級な食べ物は何でしたか？
A 白米のご飯、卵など。おなかいっぱい食べてみたかった。高級な物は知りません。



カボチャの茎はフキのような歯ごたえ



語りべと質疑応答



勇足中学校 政所知恵 教諭

毎年、本別空襲の他にテーマを工夫されているので、戦争について多角的にアプローチできますね。地域の皆さんが子供たちに伝えたい思いを感じ、とてもうれしくありがたく思いました。

資料館企画展 7月15日 本別空襲を 伝える 7/1~8/31



戦争にいった馬たち

今年は、本別空襲の資料とともに「軍馬」の資料を紹介しています。人間と同様に戦場へ征き、戦い、遠い地で遊った馬たち。ふるさとへ帰ることのできなかつたその命を慈しむ人たち…命の大切さと平和の尊さを伝えます。

仙美里駅から

明治末期から仙美里・美里別地区に軍馬育成施設が置かれていたため、仙美里駅は、軍馬を送り出す駅として知られていました。太平洋戦争中は、何千頭もの馬が仙美里駅から出征したのです。当時本別駅の職員だった森弘さん（故人）は、仙美里駅長となつた1977（昭和52）年、駅構内で馬踏板を発見します。そこには無数の蹄の跡

が残っていました。賢い馬は危険を察知して貨車に乗るのを嫌がり、板の上で踏ん張つたのでしょう。馬の無念を感じ、供養を思い立った森さんの呼びかけに賛同した楠茂音吉さん、泉野健さん（いずれも故人）が協力し、1988（昭和63）年に軍馬慰霊碑を建立しました。以来毎年、多くの人がお参りに訪れます。慰霊碑は現在、本別町農協に移管され、法華寺により永代供養されています。

長崎から

本企画展では、長崎県長崎市にある「ナガサキピースミュージアム」から資料提供を受け、全国各地にある軍馬碑（鎮魂碑、像などを含む）の写真パネル65点を展示しています。一昨年、ミュージアムを運営するNPO法人の増川雅一専務理事が取材のために来館されたことがきっかけとなりました。歌手のさだまさしさんがプロデュースするこのミュージアムでは、被爆地長崎から世界に向け、音楽、美術など多彩な芸術活動を通して平和を発信しています。



本別の軍馬資料展示



仙美里駅看板とカンテラ（合図灯）



馬踏板と森弘さん



ナガサキピースミュージアムの資料展示



道内の旧軍馬補充部所在地

伝える人

ボランティアガイドと資料館スタッフ、教育委員会職員も着けています

ナガサキピースミュージアムでは、「この地球上から戦火が消えますように」と願って「戦争放棄」と「ほうき」を掛けたマスコットを作成しています。

本高祭で ミニ移動展



7月8・9日の両日、本別高校で開催された「本高祭」会場で、企画展のミニ移動展が行われました。昨年からは始まった取り組みで、生徒や来校する皆さんに、72年前の本別高校（当時の旧制本別中学校）で空襲によって教頭先生が亡くなった悲しい歴史と、平和の大切さを伝えました。この移動展は、北海道の歴史や風土を再認識する「北海道みんなの日（道みんなの日）」連携事業としていきます。



7月15日、美里別東下2の家畜共進会場内軍馬慰霊碑前で、本別町農業協同組合と本別町馬事振興会が主催する軍馬鎮魂供養が執り行われました。読経、焼香に続き、同組合の田中敏行代表理事組合長が「30年目の慰霊祭。今ここに、多くの馬の魂が各地から集まってきているだろう。心から供養したい」とあいさつ。20人の参列者は戦争の犠牲になった馬たちの冥福を祈りました。

軍馬よ 安らかに

本別町戦没者・戦災死没者追悼式



本別町遺族会の会員10人が7月12日、本別神社内の戦没者慰霊碑を清掃奉仕



献花を捧げる参列者

戦争による犠牲者の方々の冥福を祈り、恒久平和を願う「本別町戦没者・戦災死没者追悼式」が7月15日午前10時から、遺族や来賓など約60人が参列し、向陽町ふれあい交流館でしめやかに執り行われました。

本別町では、日清・日露・第二次世界大戦の戦役で299人が戦死。終戦直前の昭和20年7月15日には、米軍機による本別空襲で40人が犠牲になり、十勝で最大の被災地となりました。

追悼式では、全町民に黙とうを呼び掛けたサイレンが吹鳴され、参列者全員で黙とうを捧げた後、高橋正夫町長が「戦後70有余年の長い歳月が過ぎ、時の流れは悲惨な戦争の記憶を風化させ、平和の尊ささえ忘れさせようとしています。国際社会では現在もなお武力による紛争が続いていることを考えると、今こそ真剣に恒久平和の実現に努めるとき。あの悲惨な歴史を二度と繰り返さぬよう、町民とともに決意を新たにすることが今に生きる私たちに課せられた責務であり、最上の勤め」と式辞を述べ、方川一郎町議会議長、桑田達一社会福祉協議会会長、政木高治本別町遺族会会長らが追悼の言葉を送りました。

続いて、参列者全員で献花を捧げ、犠牲者への冥福を祈り、平和への誓いを新たにしました。

町国保病院 外科医長に 山下健一郎医師が着任しました

7月1日、町国保病院外科医長に山下健一郎医師（50歳）が着任しました。

山下医師は、東京都港区出身で、北海道大学医学部、同大学院を修了して博士号を取得後、道内での病院や米国ハーバード大学勤務などを経て、平成19年から北海道大学大学院医学研究院に勤務。平成25年からは特任教授として、生体肝移植後の免疫抑制療法について最先端の研究に携わるとともに、肝移植・膵臓移植の臨床に従事し、大学院生や若手外科医の指導も行ってきました。専門は肝臓移植・移植免疫。

経験を生かして、地域のために貢献したい

山下医師は、本別町の印象について「長女が帯広の大学に在学していたので、十勝地方、本別町を訪れたことがありました。天候が良く、夏でも夜は涼しく、冬は雪が少なく住みやすそう」、町国保病院の印象は「チーム体制や、電子カルテの導入など、医療に対して前向き。町として真剣に、医療・福祉サービスに取り組んでいる」と話されました。

ご自身の華々しい経歴からの転職については、「これまでは高度な専門知識や技術を要求される現場だったが、50歳を迎え、医師として働ける時間を考えたとき、初心を忘れず、困っている人を幅広く診たいという思いが強くなった」として、「これまでの経験を生かし、患者さんによく話しをして、最適な医療を提供できるようにお手伝いをしたい」と、熱い思いを語りました。

学生時代はテニスに打ち込んでいたというスポーツマン。「繊細な手術が多く、指先の感覚を大事にするため、働いてからは控えていた。これからは散歩をはじめ、日常に運動を取り入れながら、時間をかけて町に馴染んでいきたい」と語りました。奥様と一男二女を持つ5人家族のお父さん。単身赴任。



校訓 真 剣

力行 力いっぱい学ぶ生徒
方正 真面目に考え行動する生徒
錬磨 身も心も鍛える生徒

「ほんべつ学びの日」～4つの風の中で～ 学校づくり

本別中学校（池浦暢校長、129人）の今年度の活動の様子をご紹介します。今年の1年生は38人1学級。1～3年生全5学級で工夫して戦った先日の体育祭をはじめとする、本中生の明るく真剣な様子をご紹介します。

各学校の手作りページ

HELLO

本別中学校



今年も部活動が大活躍！町民の皆さん、いつも熱い応援をありがとうございます。

- ①野球部勇足・本別合同チームは方面夏季大会で優勝し全十勝中体連へ進出。
- ②いつも野球部に力強い応援をしてくれる吹奏楽部は帯広地区コンクール（8月、帯広市民文化ホール）で連続の金賞と全道に挑戦。
- ③全十勝中体連の熱戦から。陸上部塚林くん（3年）。
- ④中体連壮行会の模様。壇上あいさつは卓球部。



7月の野外体験行事は1・2年生。⑤と⑥の写真は2年生宿泊学習（ネイバルあしよろ）のウォークラリーと炊事の模様。⑦は1年生野外体験学習（足寄町里見が丘キャンプ場）での炊飯前の火おこし体験。うまく火を作れたでしょうか。

今年の文化祭は9月30日（土）、地域公開参観日・教育講演会は11月26日（日）開催です！保護者以外の町民の皆さんも参観できます。お待ちしております！

仲間を思いやる心を学ぶ 6 18~23

実行委員会（山下健司実行委員長）主催による第15回ほんべつ元気合宿が6月18日から23日までの6日間、中央公民館を主会場に行われました。町内の3小学校の3～6年生11人が、北海道教育大学釧路校の学生や地域ボランティアらのサポートを受け、毎日下校後に、洗濯や夕食の材料の買い出しから調理、後片付けなどに挑戦。親元を離れた共同生活を通して仲間を思いやる心や協力することの大切さを学びました。



障がい団体が互いの活動を理解 6 19

チャレンジド・ネットワークほんべつ（新津和也会長）加盟団体代表者会議が6月19日、総合ケアセンターで行われました。会議では、初めて新津会長が出席した11団体1個人など計32人へ、「各団体の活動を知り、今後の皆さんの活動に生かしてほしいと思います」とあいさつ。事務局より平成28年度の事業報告と平成29年度の事業計画案等が提案され、出席者全員で承認しました。続いて、各団体から活動報告が行われ、それぞれ平成28年度の取り組み内容などを発表。互いの活動に理解を深めながら、課題や情報を共有しました。



4団体が迫力ある演奏を披露

町文化協会主催による第34回吹奏楽合同演奏会が6月24日、中央公民館で開催されました。演奏には本別ジュニアプラスアンサンブル、本別中学校吹奏楽部、本別高等学校吹奏楽部、本別プラスアンサンブルの4団体63人が出演し、映画・アニメソングや聴き慣れた歌謡曲など16曲を、日ごろの活動成果として披露。最後は4団体共同による演奏が行われ、アンコールを含め3曲を演奏、会場を訪れた家族や友人たち約300人の観客を魅了しました。



子供たちのために環境整備 6 25

本別中学校生徒の保護者で構成される義経の会（方川弘一代表）が6月25日、同校で環境整備作業を行いました。昨年は悪天候のため実施できませんでした。今年は同会会員ら11人が参加し、グラウンド周囲にあるフェンスを塗装。参加者らはペンキで衣服を汚しながら、丁寧に作業を行いました。作業終了後は焼き肉で懇親会を行い、交流を深めました。



白糖大漁まつりで本別をPR 6 25

6月25日に白糖町で開催された第21回港in白糖大漁まつりに本別町観光協会等が出店し、本町の特産品をPRしました。この出店は、本別町と白糖町が平成25年から締結している「包括交流連携協定」によるもので、今回の出店で5回目。本別町ブースでは、キレイマメ商品や豆などの加工品、黒豆味噌を使った豚まんの「黒まん」など38種類を販売し、黒まんが蒸し上がるたびに行列ができる人気ぶりを見せました。



100歳おめでとございます 町敬老祝い金の贈呈 6 20

北1丁目の植田ラクさんが6月20日に100歳を迎えられ、高橋正夫町長から敬老祝い金を手渡されました。

ラクさんは大正6年6月20日に福島県でお生まれになり、昭和5年ころ、家族とともに陸別町へ移住。その後、夫の故一さんと結婚し、足寄町で農業を営みながら3男4女のお子さんを育てました。離農後は、本別町で飲食店を経営。現在は北1丁目の自宅で息子の一美さんと暮らしています。現在までに孫10人とひ孫8人にも恵まれたラクさん。長寿の秘訣は、「何でも食べる」ときっぱり話し、100歳を迎えたことについては、「葉は飲んでいるが、入院はしたことがない。息子や娘、家族に世話になり、本当にありがたい。私は幸せ者です」と喜びと感謝の気持ちをしっかりと口調で語りました。



国民年金 コーナー

「ねんきんネット」でいつでも最新の年金記録を確認できます

その184

将来受け取る年金額は、加入した年金制度（国民年金、厚生年金）や、それぞれの加入期間、納めた年金保険料などによって決定されます。インターネットを通じて「ねんきんネット」を利用すると、日本年金機構が把握する最新の年金記録をいつでも確認することができます。

ねんきんネットで確認できること
 ○最新の年金記録を確認できます
 ○公的年金制度の加入履歴や、国民年金保険料の納付状況、厚生年金に加入していたときの会社名や標準報酬月額などを確認できます
 ○年金見込額の試算ができます
 「年金を受け取りながら働き続けたときの年金額」など、自分の人生設計に合わせた働き方の条件を設定して、

将来もらえる年金額を試算することができます。

ねんきんネットの利用方法

インターネットに接続できるパソコンやスマートフォンをお持ちの人は、日本年金機構のホームページで登録手続きをすると、5日程度でログインに必要なユーザーIDが郵送されます。

役場でも年金記録を確認できます
 インターネットを使えない人でも、役場住民課でねんきんネットサービスを利用することができます。
 ○手続きに必要なもの

- ・本人確認書類（マイナンバーカード、運転免許証など）
- ・基礎年金番号が確認できるもの（年金手帳、基礎年金番号通知書など）
- ・印鑑（シャチハタ不可）
- ※代理人が手続きするときは、委任状（役場にあり）、代理人の本人確認書類、代理人の印鑑が必要です



詳しくは
住民課戸籍年金担当へ
 ☎22-8128
 日本年金機構のホームページは
<http://www.nenkin.go.jp/>

焼肉で職業超えた交流 7 1

ほんべつ若者の輪創造プロジェクト実行委員会（太田諭志実行委員長）による焼肉交流イベントが7月1日、本別大橋下の河川敷地で行われました。昨年度に引き続き、町内の青年5団体が結集し、町内にいる若者同士の集いの場となるよう企画された同イベント。今年は町内外から約80人が参加し、ビールやチューハイ片手に焼肉を楽しみながら会話を弾ませ、職業を超えた交流が図られました。



老人クラブ連合会が半世紀の節目 7 1

町老人クラブ連合会（小川健次会長）が設立50周年の節目を迎え、記念式典および祝賀会が7月1日、中央公民館で開催されました。同連合会は昭和43年6月に結成され、仲間づくりを通じた生きがい・健康づくり、交流活動が行われており、最盛期には15団体1,000人以上の会員で組織されていましたが、現在は10団体、384人で構成。式典には160人が参加し、小川会長が「先人の努力に感謝し、今後ともお互いの絆を強めたい」と式辞を述べ、歴代役員ら12人へ功労者表彰が行われました。



農大産黒毛和牛、いただき！ 7 2

北海道立農業高等学校の第44回農大祭（堀篤志実行委員長）が7月2日、同校で開かれました。会場では、今年も焼きそば、フランクフルトなどの模擬店のほか、同校で加工されている「仙美里ヶ丘ブランド」のアイスクリームやソーセージなどのお店が出店。早々に完売する商品もあるなど人気を見せたほか、焼肉コーナー用の肉には、農大産の黒毛和牛1頭分が販売され、多くの来場者が購入した和牛肉をその場で焼いて味わいました。



川魚、釣れた!! 7 1

ほんべつ学「夏のまなび」が7月1日、美里別地区公民館を主会場に行われました。「ほんべつの川魚」をテーマに、町内の小学生20人が参加。子供たちは中央公民館で川魚についてのお話を聞いたあと、バスに乗って美里別地区公民館に移動し、美里別川でさっそく川釣りに挑戦。中高生ボランティア9人の協力の下、苦戦しながらも、イワナやウグイなどを釣り上げた子供たちは、暑さを吹き飛ばす笑顔を見せていました。



全道陸上大会の出場報告 6 29

十勝予選を突破し、7月16日、17日に室蘭市で開催される第35回北海道小学生陸上競技大会に2種目で出場する本別陸上少年団（葛西尚美代表指導者）の松井琉偉さん（本別中央小6年）が6月29日、教育委員会を訪れ、中野博文教育長に全道大会出場の報告をしました。松井さんは「ジャベリックボール投は50m、砲丸投は8mを目標に頑張ります」と力強く抱負を述べ、中野教育長は「ベストな体調で自己記録更新を目指して」と激励しました。



全道大会では、砲丸投は自己ベストを更新し優勝（9m04）、ジャベリックボール投は4位入賞を果たしました。

町民ゴルフ大会に愛好者集う 6 25

実行委員会（岡崎勉実行委員長）主催による第20回本別町民ゴルフ大会が6月25日、帯広白樺カントリークラブで開催されました。競技は18ホールストロークプレー、ダブルペリア方式で行われ、参加した55人は白熱したプレーを展開しながら、お互いの親睦を深めました。また、チャリティーとして総額55,000円が寄せられ、本別町スポーツ振興基金へ寄付されました。成績は次の通り。

優勝 = 河村泰彦 さん
準優勝 = 鎌田国夫 さん
3位 = 中前行視 さん



大道芸に歓声 6 30

夜でかけナイト（実行委員会主催）が6月30日、北1丁目から北4丁目商店街で行われ、多くの家族連れなどで夜の市街地が賑わいました。会場の銀河通りや国道沿いでは、今回も各商店によるビール・焼き鳥などの飲み物・食べ物の販売があったほか、北4丁目アースホール前には、大道芸人「パフォーマーはち君」が登場。ヨーヨーを使った技のほか、火のついたスティックでのジャグリングなど、華麗な芸や技が次々と披露され、来場者から大きな拍手と歓声を送られました。



川崎 稔さんに叙勲 6 28

瑞宝単光章を受賞した川崎稔さん（柏木町）の叙勲伝達式が6月28日、役場で実施され、十勝総合振興局坂部浩明副局長から勲記と勲章が手渡されました。川崎さんは、昭和42年から平成18年までの38年の長きにわたり、池北三町行政事務組合本別消防署員として本町の予消防並びに災害活動における指揮等に尽力。消防士として勤務した当時の思い出などを語ったほか、「受章できるとは思わなかった。今後も地域社会活動に貢献したい」と喜びを話されました。



7 12 東北部3町で新たな食ブランド構築へ

本別町、足寄町、陸別町の3町が地場産品を活用した新たな食ブランドの構築を目指す「十勝東北部3町食ブランド構築研究会」の設立会議が7月12日、陸別町内で開催されました。この取り組みは、国の地方創生推進交付金を活用した3町の広域連携事業で、地域における食文化発信と観光との相乗効果で町の活性化につなげるのが目的。本年度はメニューの検討や試作を行い、共通のルール案を作成することで新たな3町の食文化の定着を目指します。同会議には関係者有志が集まり、本別町からは5人が会員として参加。同会副会長に池田圭吾さんが選任されました。



十勝東北部3町食ブランド構築研究会設立

7 11~13 大阪の高校生が農村ホームステイ

大阪府立刀根山高校2年生39人が7月11日～13日、修学旅行で本別町を訪れ、農村ホームステイを体験しました。生徒らは2～4人単位で、本別子ども民泊受入の会（井出千午会長、20軒）の会員11軒の自宅へ分散。ほとんどの生徒は初めての北海道訪問で、退村式では「こんなにきれいな星空はみたことがない」「トマトなど野菜がかなり美味しかった」などの感想が述べられ、本別ならではの農業や受け入れ農家らの人柄に触れることができた、都会では味わえない時間を過ごしました。



7 12 ベストタイムを出せるよう頑張ります

標準記録を突破し、7月15日・16日に江別市で開かれる第40回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会北海道予選会に出場する本別水泳少年団（及川哲夫代表指導者）の団員6人が7月12日、教育委員会を訪れ、中野博文教育長に全道大会出場を報告しました。選手らは、出場種目のほか、「ベストタイムを出せるように頑張ります」などと、意気込みを語り、中野教育長は、「体調管理に気を付けて、暑さに負けないで頑張ってきてください」と激励しました。



全道大会では、入賞はできませんでしたが、それぞれ健闘しました。

7 8 プールで水上レクリエーション

町教育委員会主催による今年度前期2回目の体育館スポーツ学校あかけら少年団「水上レクリエーション」が7月8日、町民水泳プールで行われました。参加した町内の小学3～6年生8人は、コースロープを外したプールで、つるされたロープにつかまり水上のフラフープに飛び込むターザンジャンプや、プールの浮かぶ発砲スチロールの板を駆け抜ける浮島渡りなど4種類のゲームを楽しみました。



7 5 チームワークでゴールを!

十勝の予選を勝ち抜き、7月15日～17日に帯広市で開かれる第14回全道少年U-10サッカー北海道大会に出場する、本別サッカー少年団（真鍋照彦代表指導者）の15人が7月5日、教育委員会を訪れ高橋正夫町長と中野博文教育長に北海道大会出場を報告しました。選手らは「あきらめず、次につながるプレーができるよう頑張る」「与えられたポジションを全道大会でもしっかりとプレーをしたい」と語り、高橋町長は「絆を大事に、思い出が残る大会にしてください」と激励しました。



北海道大会では、決勝リーグ進出は逃したものの、チーム一丸となって健闘しました。

7 10 万が一のために、救急救命士に学ぶ

家庭教育支援事業「なかよし」による子どもの救命救急講座が7月10日、子育て支援センターで行われました。参加したお母さんら11人は赤ちゃんの人形を使って心臓マッサージや人工呼吸を体験。本別消防署の金曾雄一救急救命士から「1分間に120回の心臓マッサージは思った以上に大変だが、やらなければ救命率が極端に下がる。緊急時は動揺してしまいが、わが子の命を守るため、冷静に処置していただきたい」と指導を受け、参加者は体験談を語りながら意見交換を行いました。



7 8・9 個性あふれる最高のダンス!

本別高校（佐藤渉校長）の第75回本高祭が7月8・9日の2日間、「Various Color ～十人十色～」をテーマに、同校などで実施されました。8日には、毎年恒例の仮装行列とパフォーマンスが役場前で行われ、生徒らはクラステーマに沿った仮装衣装を身にまとい息のあったダンスを披露。会場に詰め掛けた保護者や友人などから大きな拍手が送られました。また、9日には同校で演劇やバザー、催し物などが開かれ、子どもから高齢者まで多くの人が訪れました。



みんなの健康

396

人の体を考えるとき「おしっこ」は重要な目印になります。そこで皆さんに知ってほしい「おしっこ」について説明します。

1.回数について

「頻尿」(おしっこの回数が多い)というの

「頻尿」(おしっこの回数が多い)というの「2時間に1回以上の排尿」があることで、夜中に2回以上排尿がある人は、夜間頻尿といえます。男性でしたら「前立腺肥大症」、女性でしたら「膀胱炎が最も多いでしょうか。病気がないのか、または治療が必要なのか、検査が必要です。」

2.色、泡立ちについて

体に水分が少ない(脱水)状態になると、おしっこの色が濃くなり、泡立つこともあります。十分な水分摂取が必要です。ただ病気の場合もあるので、気に

なるときにはかかりつけの医師に相談してください。尿が赤いときには「血尿」である可能性が高く、病院での検査が必要です。

3.量について

1日の尿量はその人の体重でおおよそ決まります。体重1kgあたり1時間で0.5〜1.0mlのおしっこが出ます。例えば体重60kgでしたら、一日の尿量は約750〜1500mlです。これより少ない場合には、水分摂取が足りていないと考えられます。

おしっこの話

以上、自分の体の状態を知っておくために、おしっこの「回数」、「色」、「量」について気にもらい、いつもと違うときにはかかりつけの医師にまずは相談しましょう。もし、かかりつけの医師がいなかったときには「泌尿器科」または「内科」の先生に相談しましょう。



本別町国民健康保険病院 院長 武田 真一

未来に輝く子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。
お父さん、お母さんのたくさんの愛に囲まれて、元気に育つてね!

北6丁目
古川 和樹 さん
(咲くく)



※写真は本人に了解を得た上で掲載しています。



本別初!「地域おこし協力隊」~2人の隊員が着任~

昨年度は約4千人の地域おこし協力隊が、全国でさまざまな活動に取り組んでいます。本別町では7月から2人の隊員が着任。それぞれの任務を開始しました。2人の活躍は、今後掲載していく予定です。



住進推進員 (企画振興課) 横山 泰平

生まれ育った本別町へ13年ぶりに戻り、働けることをうれしく感じています。接客業をさせていただき、地域を愛で、たくさんの方に本別町を売り込み、移住につながるよう頑張ります。趣味は温泉巡りです。皆さん宜しくお願いします。

本別町出身 31歳



農福連携事業支援員 (総合ケアセンター) 柏木 祥子

大学で農業を学び、前職では精神障がいがある方の支援に携わってきました。6月末に東京から移住。生活も仕事もまだ手探りですが、これから農福連携事業に取り組んでいきます。山登りが好きなので、北海道の山にも挑戦したいです。

東京都出身 37歳

お詫び

広報ほんべつ2017年7月号(No.1065)11ページの「町中がたくさんの花でいっぱい」の記事の中で、掲載団体の代表者名に誤りがありました。次の通り訂正し、深くお詫びいたします。
誤…J A本別町女性部(井出克子部長)
正…J A本別町女性部(細田友子部長)

ご寄付ありがとうございます

平成29年6月16日から7月15日

次の通りご寄付をいただきました。紙上を借りて厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- ★本別町児童発達支援センター指定 金300,000円 …… 柏木町 田西 昭子
- ★本別町スポーツ振興基金 金55,000円 …… 本別町ゴルフ大会実行委員会 委員長 岡崎 勉

- ★本別町高齢者福祉振興基金 金50,000円 …… 昭和四年巳年会 会長 荒木 讓作
- ★本別町医療保健福祉施設等整備基金 金30,000円 …… 北8丁目 松岡勝四郎

個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付 計 金1,540,000円 …… 119人

銀河ホップ・ステップ・ジャンプ

足寄町

第38回足寄ふるさと盆踊り・両国花火大会

盆踊りや花火大会などさまざまな催し物で皆さんをお迎えます。ぜひご来場ください。

□とき 8月15日(火) 午後1時30分

□会場 町民センター前駐車場 利別川河川敷

陸別町

銀河の森天文台 夏のイベント情報

夏の星座を楽しむ観望会などで、皆さんの来館をお待ちしております。

◆ハルセウス座流星群観望会

8月11日(金)夜13日(日) ◆もぎく伝統的七夕キンドルナイト

※午後7時30分から27ドル点灯 また、8月のプラネタリウムは、毎週土・日曜日のほか、8月11日から16日まで毎日上映します。

□内容 午後1時30分〜ピアガーデン ミニステージ

午後3時30分〜子ども縁日 午後5時30分〜みんなで楽しむ足寄音頭 子ども盆踊り

午後6時〜もちまき 午後6時25分〜仮装盆踊り・素踊り 午後7時15分〜両国花火大会 午後8時15分〜仮装盆踊り審査発表

※時間は変更になる場合があります。 □詳細 足寄町役場経済課林業商工観光室 ☎2512141内線251

□開館時間 午後2時〜午後10時30分 ※8月11日〜16日は、正午から特別開館

□休館日 毎週月・火曜日 ※8月14日(月)・15日(火)は、特別開館

□入館料 大人(昼間) 300円 (夜間) 500円 小人(昼間) 200円 (夜間) 300円 ※小学生未満 無料

□詳細 銀河の森天文台 ☎2718100

本のある暮らし 197

赤ちゃんを心豊かに

～子育てに図書館を～

戸籍のまど

お誕生

6月後半から7月前半の届出分

- 池田千紗都^{ちさと} 和也^{わだ} 6/13 中央小 智美^{ちみ}
- 竜滝小和^{こわ} 剛^{こう} 6/13 山手町 紗都美^{さとも}
- 田畑佑樹^{ゆうき} 政樹^{まさき} 6/15 中学校 真由美^{まゆみ}
- 鈴木翔仁^{しょうに} 譲^{じょう} 6/24 北8丁目 樹里^{じゅり}
- 渡辺琥徹^{こたく} 紘生^{こうせい} 7/12 北4丁目 梓^{しづ}

ご結婚

- 横山泰裕^{たいう} 新町
- 佐々木はる香^{はるか} 幕別町
- 片山亨輔^{こうすけ} 北4丁目
- 川井亜紀^{あき} 足寄町

おくやみ

- 小川 丞^{しげ} 93歳 6/20 北6丁目
- 渡邊孝子^{たけこ} 92歳 6/26 北7丁目
- 小田照子^{てるこ} 81歳 6/28 東町
- 足助ミノ卫^{みのゑ} 101歳 7/11 向陽町
- 大友 榮^{さか} 89歳 7/13 南1丁目

図書館では、平成21年度から「ファースト・ブック事業」をスタートし、健康管理センター等と連携して「胎教からの絵本の読みきかせ」をおすすめしています。また、施設改修によって赤ちゃん連れでも利用しやすくなりました。

おなかの赤ちゃんとのコミュニケーション

赤ちゃんは、胎内で聞いたママの声を記憶して生まれてきます。絵本を読んで、厳選された良いことばを、おなかの赤ちゃんにたくさん語り掛けてあげましょう。

赤ちゃん誕生の記念になる絵本づくりのお手伝い、おすすめ絵本の紹介、読み聞かせなど、図書館ではボランティアぶつくとともに、絵本による赤ちゃんのことば育て、心育てを応援します。



パパ・ママ一緒に絵本づくり

1階がこんなふうになりました

男子・女子トイレを洋式化したほか、赤ちゃん向けの新たな設備がお目見えです。また、ママの声にお応えして、授乳室も設けました。ファミリーでどうぞ気軽にお立ち寄りください。



読みきかせコーナーに授乳室

パパとのお出かけも安心!



男子トイレブース内にも補助便座



女子トイレにおむつ替えシートと着替え用ボード

わたしたちのまち

前月比
 人口 **7,328人(-9)**
 男 **3,602人(-6)**
 女 **3,726人(-3)**
 世帯数 **3,727戸(±0)**
 〔6月末日住民基本台帳〕

お問い合わせ先
本別町図書館
 (愛称:ぶつくる一丸)
 本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112